

世界列強の鑛産資源と鑛業政策（九）

米國地質學者シー・ケー・レース博士著

近 藤 堅 二 譯

第七章 鑛物と戦争

戦争の遂行と鑛物

世界大戰は列國の工業力と軍事勢力が其の死活の鍵を一に鑛物に握られてゐることを切實に實證した。

鑛物なるものは何處にでも潤澤に回収し得るものに非ざることが俄かに關心を惹く様になつてきた。

少數の豊富な鑛産資源を保護し獲得することと輸送通路を求めて之を防衛することが軍事上の重要問題となつてきた。中歐の列強が自國境

内に産出の不足を感じてゐた銅、滿俺、硝石、ニッケル其他の鑛石の輸入路を閉鎖されたことが實に此等の諸國の最後の敗北を招く重大原因となつたのである。之と反對に聯合國側は少數の鑛物殊に敵國なる獨逸にのみ多い加里鑛に缺乏を感じてゐたが、之と共に獨逸はローレン州の鐵鑛産地を占領して居る事などが禍して遂に大戰勃發の動機となつた。

斯くて或る種の鑛物を割り當てゝ不要な洋上輸送路を停止せしむる目的の國際委員會を何としても設立せねばならぬ事を漸く痛感するに至つた。特別な國家代表機關は場所を選ばず地方

的の供給資源の開発に着手し始め外國の資源に供給を仰ぐことを防止し、他の軍事上の目的に充てるため船舶輸送の經濟を企てることとなつた。

局所の開発に對する此の種の運動の餘勢は我が北米合衆國に於ては今尚ほ滿俺、タングステン、加里鎳等の鑛産地の或るものに反映してゐる。列強は始めて世界に於ける鑛物分布の情勢と特に自國の缺陷に就いて大いに學ぶところがあつたのである。

大戰以來此等の問題は軍人幹部の研究と計畫に於いて顯著な役割を演じ來るやうになつた。注目の焦點は所謂戰勝の鍵を握る鑛物（其の他の原料鑛石と共に）集中した。——即戰爭の遂行に缺くべからざる鑛物であると同時に可成りの量を収め得る分布狀態を有する鑛物である。

此の鍵を握る鑛物のうちには事實上、鐵及び鋼の製造に必要な鐵合金屬の全部を含むと共に錫、ニッケル、石墨、滿俺、雲母、天然硝石

も之に入るが總て消費する國を距る遠き諸國に於いて莫大に生産されるものばかりである。

現に稼行せるものは勿論であるが將來に於いても産出の見込みあるものをも含めてあらゆる資源を悉く知ることが肝要である。此の種の鑛物を戰時に適するやうに供給する計畫に際して主要な工業國は種々な國々の組み合はせに對する輸送通路を確保し總ての商品ストックを貯藏中と通送中を問はず戰時に即時動員し得るやう保管し戰時用として特別に膨大なストックを組立てる等の重要問題に直面するのである。最後に擧げた方法は最も確實なものであり全世界の陸海軍幹部の一般に所期するゴールであるといつてよい。然し此のストックが眞に巨大な投資を容れるだけに効果的な程充分に大きいかは難しいし平時に於いて大抵の國に於いて此の種の準備行動に國民が充分の賛意を表はすかは疑問である。例へば北米合衆國に於ては戰爭に對する充分な準備は最小限度で一年間の貯藏を持続

し得る滿俺の大量を内容とするものであらうことは察するに足るが更に明瞭なのは立法體として一般人の理解の薄い原料物質の要求よりも鐵砲や船舶を募る方が容易なことは見え透いてゐることである。

戰爭を控えての軍備行動なるやを判定すべき確實な證據のうちで特に商用的需要量を遙に超えた鍵を握る鑛物の大ストックを政府が貯藏することは最早戰意の疑ふべからざることを示してゐる。

大戰以來佛國は自國の需要量以上の滿俺其の他の鑛物の資源地を莫大量に獲得したが恐らく之は來るべき將來への戰備と推察される。伊太利も商品需要量を凌ぐ大量の石油の貯藏と精油所建設をやり始めてゐる。

不幸にも斯かる報告は容易に手に入らない。斯の種の數字が公に知られることは自ら世界の視聽を戰禍の危險爆發點に集中することになる。此の事情は獨逸が大戰の直前に行つた鍵を

握る鑛物の輸入に遺憾なく示されてゐるが次の圖表を參照してみると其の感が深い。

當時此等の數字は一般の知るところではなかつたが、種々な事件と參照して此の數字を解釋すれば如何に明に危險信號を豫告してゐるかわ判かる。獨逸は一九一四年の上半期の六月間に滿俺、眞鍮、ニッケル、錫、アルミニウム、石綿、硫黃、石墨、雲母のストックを貯藏したが之は従前にない割合で巨量を収容したのであつたが實に非常戰時を期して計畫された需要であることは疑なきことであつた。

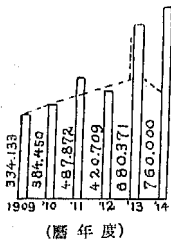
如何なる國でも戰爭を起し得るが之を最も近代的狀態の下に持續して行くには其の國の鑛物特に燃料用鑛物、鐵、銅、鉛、亜鉛等に基く工業力の成績如何に依つて決せられるのである。軍事勢力が主として戰闘員の多數に依つてのみ量られた時代は既に過去に屬することとなつた。

亞細亞の民族は近代の工業主義の武器に對して破壊を試みるであらう。此の見地からすれば

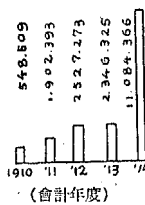
獨逸の戦備

大戦前ニ於テ獨逸ガ國內產出量ノ不足セル軍需品工業ノ原料タル特殊鐵物ヲ海外ヨリ輸入セシ情況ヲ圖示セルモノ。
下圖ノ各ダイアグラムニ於テ對角線狀ノ斜線ハ1910年ヨリ1914年ニ至ル間ニ於テ各年毎ニ獨逸ノ輸入額ガ7%ノ増加傾向アルヲ示ス。

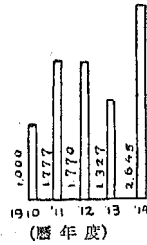
滿鐵鐵
獨逸ガ輸入シタ全額
Mineral Industry
1909-1913 及び
1904年ノ分ハ Glückout
Vol 50 Ptxヨリ
點線ハ鐵鋼業ノ消長ヲ示
ス



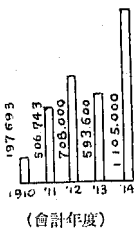
ニツケル鐵
北米一獨逸へ
Foreign Commerce
& Navigation of U.
S.Aノ資料ニヨル
(數量ノ單位ハポンド)



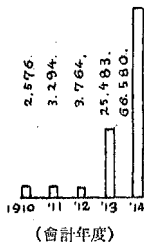
錫 鐵
海峽殖民地ヨリ獨逸へ
北米合衆國領事報告ノ
資料ニヨル
(數量單位ハ噸)



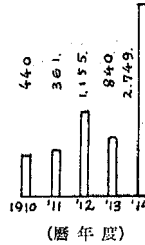
眞鍮...全部 眞鍮ノマ
北米ヨリ獨逸へノ資料ハ
Foreign Commerce
& Navigationニヨル
(單位ハ弗)



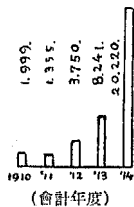
アルミニウム
北米ヨリ獨逸へ
Foreign Commerce
& Navigationノ資料
ニヨル
(單位ハ弗)



石棉...原鐵石ノマ
加奈太ヨリ獨逸へ
Canadian department
of minesノ資料ニヨル
(單位ハ噸)



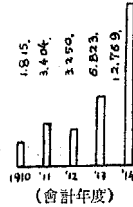
硫 黃
北米一獨逸へ
Foreign Commerce
& Navigationノ資
料ニヨル
(單位ハ噸)



石 炭
北米一獨逸へ
Foreign Commerce
& Navigationノ資
料ニヨル
(單位ハポンド)



鹽 母
北米一獨逸へ
Foreign Commerce
& Navigationノ資
料ニヨル
(單位ハ弗)



地

球

第二十七卷

第四號

三八

六六

列國の軍事勢力の相互的大さは第三章に既述せる鑛物の情勢から引用すれば凡その見當はつく。即ち工業力の順位では無限の將來に向つて北大西洋を圍む諸國が王座につくといふ豫察は動かぬところである。之を除く世界の如何なる國も今述べた諸國の工業力を凌駕することは至難である必需の原料を缺くためである。

缺陷である鑛物は自在に輸入して補充することは出来るが非常時に當り如何なる國でも原料を變造すべき工業プラントの大組織網を建設することは殆んど難しいといつてよい。これは常時に商業的に行はれねばならぬ且つ長時期を要する。有事建設の可能性は通常は高く評價し過ぎてゐるが必要な尺度と時が低く見積られるためである。

特に注意を要するのは亞細亞、地中海沿岸、南米には必需原料を全く缺いてゐて獨逸には之が存在することである。戰時用として大英帝國の鑛物勢力を評價することは至難であるが其の

理は同國は鑛物の地理的分布廣汎にして敵國の種々なる保留資源の整列の下に於いて果して如何なる程度まで單位統制を以つて動員し得るやの疑ある故である。或る程度まで此の疑問は遠隔の諸國に依つて政治的及商業的に統制を受ける如何なる鑛物にも押し廣めて當筭するものである。

戰爭の原因としての鑛物

鑛物の統制に關する國際間の軋轢は鑛物の消費が増大するにつれてまた豊富な資源が稀で且つ絶對に他物を以つて間に合はぬ事を痛感すると共に其の氣運は益々濃厚になつて行く。此の國際間の對立は自ら工業と國防に最も重要であり産額と地理的分布に限りのある鍵を握る鑛物を中心として行はれる。此等の拮抗は主として商業に關するもので一般公衆の問題に上らぬにも係らず決定的で固執的である。時々刻々に戰爭に到る一歩手前の政治的激怒摩擦の警報が鳴つてゐる。

獨逸に於ける冶金工業の大發展が商業上の嫉妬の對稱となり之が誘因となつて世界大戰の勃發を見るに至つたのである。殖民地領土の膨脹擴大に對する努力は屢々、保留鑛產地域の確保欲望に依つて導かれる。

適例を舉げれば獨逸は大戰前に於いてモロツコの鐵鑛床を得んとし英國はクリブランド管理期間中ヴェネズエラに於いて屬領を追加すべく努めたが如き又チリ及びペルー間の國境紛争問題の如き皆之である。歐羅巴に於いては。平和條約の下に多量の必需原料を或る國々から剝して屬領の配置を改訂した結果として此處に政治的摩擦の大なるものが生じた。奥國は殆んど自國の鑛床を割讓させられ獨逸は東部及び西部の國境に於ける重要な鑛業地を失つてゐる。一八七〇年戰役に於いて獨逸がローレン州を占領したのも鐵鑛の統制が重要な原因となつて居り之に踵いでローレン、アルザス、ザール區域が佛國に依つて占められたのも鑛產資源の獲得

が最終の目的であつた。

現在に於ける伊太利の不安も大部分は我が伊國は大戰の賠償として北部アフリカの資源の或るものを當然獲得すべしとの感情に基くものである。

此處に鑛物の供給に缺陷のある獨逸の現狀は最も注意をすべき場合である。獨逸は一八七〇年以來ルールの石炭とローレンの鐵鑛を中心として一大工業發展の建設に努めた國であり戰前には殖民地屬領に於ける鑛物の採鑛が盛んに行はれてゐた。獨逸は高度の製煉冶金計畫の大發展に依つて鑛石の大量が世界の各地から莫大な流量を以つて此の國に集中したのである。

然し今では鐵鑛、石炭の重要部分、シレジャの鉛及び亞鉛、及び殖民地屬領に於ける將來發展すべき保留資源を擧げて悉く剝奪されてしまつた。

僅に残つたルールから供給される石炭も佛軍のルール占領に依つて一時は危機に陥つた。獨

逸は石炭と加里鑛を僅かに残すのみとなつた。海外にある供給資源は敵國に依つて商業的に政治的に殆ど除外なく統制を受けてゐる。

情勢は一種の不安定な均衡状態になつてゐるが將來に於ける紛争を豫防するために賢明にして微妙な處置が講ぜられねばならぬ。獨逸が必需原料を確保せんとする自然的欲望は他の列強が故意に行ふところの獨逸への原料物質の流入量に對する制限不當處置に依つて著しく高潮にされる。此等の列強は他方には無制限な供給より生れる獨逸の工業上の發展を極度に恐怖してゐる。

若しも科學組織の方面に於いて獨逸の貢獻が廢棄されるならば世界の能率と資源保存運動は退歩するであらう。此の問題の將來は如何？

斯かる情勢は宣戰布告の原因とはなり得ぬが然し戰爭心理の展開に對する空氣を醸してゐることにはなる。

平時に於いて問題の鑛物が豊富に常態どほり

に回收されてゐても戰時となれば其の統制が敵の手中に握られる懸念は絶えずあるのである。現在では鑛物に對する列強の角逐勢力が近い將來に減退しさうだといふ事を確證すべき何の見透しもついてゐない。却つて漸次に増大する鑛物の消費量と膨大な商業的及び政治的統制單位は其の時期の來るまで鬭争を強化せしめるのみである。

此等の動向を抑制すべしとの問題は極めて難物であり一つとして明瞭な解決案はない。然し斯かる情況に於いて尙ほ且つ或る種の實行性を伴ふ改善策を約束する補整要素を含んでゐるのだが次の項で之れに就いて論ずることにする。

戰爭防止を目的としての鑛物

商業的及び政治的統制が急激に集中化すると共に論争の範圍より強化せる拮抗に依つて益々狹隘になつてきてゐる。歐羅巴の大陸鐵鋼條令は歐洲に於ける關係國相互間の摩擦を稍輕減したものであるが北米合衆國及び大英帝國の鐵鋼

工業との競争を強化した傾きがある。

石油事業の合同は自ら少數の重要區域に於ける少數の大單位に對する競争が狭く刻み込まれる有様である。

ローヤルダツチシエル(英國系)とスタンダード石油(米國系)間の了解は之を除く外國油田に於ける競争地帯の増加を消滅せしめるよき端緒となつてゐる。

斯くて此の傾向に何等の變革はないが更に相互間の統一鞏固と了解は競争の區域を狭くしてゐる結果となつてゐることは避くべからざるところである。

斯く推論すれば若しも事業上の合同が完全に成る曉には鑛物に對する國際的拮抗は戦争の禍因を胎むものとしてゝなくなるであらうといふ結論に達する。

然し此の理想主義的見解は合同なるものがまだ不完全極まるもので決して完全でない且つ漸次に競争地帯は數と面積を減ずるし更に強力な

論敵の間に介在し而かも抗議を提出するに偉大なる迫力で押してくることを忘れてゐる。

世界に於ける多數の鑛業の單位作業なるものが皆類似してゐる事を認めても尙ほ果して何れの國家又は國家群が政治的に此等の覇權を握るかの問題が残る

強國は相互に政治的統制上の提携策を考慮して何等かの充分な對策を練り之が實現を得るに非ざれば此の覇者の地位を獲得せんとする競争は依然として止みさうにもない。獨佛兩國の間のルールの石炭とローレンの鐵鑛を基礎とする鐵鋼工業は商業的には提携を見たが政治的統制に對する競争は長期に互り續いて行く。(原著六二—六三頁參照)

世界大戰中も其の以後も必需原料物質を支配する諸國は平和を破壊する如何なる國に對しても絶對に其の輸出を嚴禁すべきだらうといふ案が各方面から進言されてゐる。(原著一六八—一六九頁參照)これは必需原料の供給不足の國

新著紹介

々に對しては自己防衛になり併せて此の種の國々の間の紛争の規模を制禦することになる。然し如何にして供給に事を缺かぬ國々の好戰的活動を抑制すべきかといふ問題になると却々に難しい。

將來に於て考慮すべき重要事態たるべき逆行的影響は如何なる國も戰時供給に當つて眞に自給自足であり得ない事と近代式戰爭には莫大量の必需物資原料の供給は之を全地球上より仰がねばならず自國內の資源に恵まれてゐる國でも此の事に變りはないなどの事情である。

適切な準備の問題とは此等多くの通商上の交易路を自由に開放する道と手段とを含んで居るが之は最も強大な國ですら恐らく其の權限外にあるものであらう。

軍備に關しては原料物資を驚くべき程大量に要する事を認識することは自ら宣戰布告へ性急な決意をするに當つて熟考躊躇することになる。(未完)

O Bruno Dietrich : Vom Wesen des Amerikaners. Wirtschaftsgeographie 10. Heft Berlin-Wien-Turich 1936 303.

本書は Bruno Dietrich 編輯する所の叢書 Wirtschaftsgeographie の第十卷で北米合衆國に就て造詣深き Dietrich が米國人の本質を簡單に述べたものである。

米國人は世界人としてその歴史が新しいにも拘らず英人と同等に見られてゐるが、それならば一體米國人の血管の中を流れてゐる血はその先祖(主としてゲルマン)の血であるか、それとも特殊な性質のものであらうか、彼はこの點から米國人の本質を明かにせんとした。而してその場合米國人を構成する骨組は人種と國民性であり、それに肉付けしてゐるのは個性と經濟精神であると彼は考へた。以下彼はこの四つの要素に就いて次々に述べて行く。

一、人種 アメリカは一つの Melting Pot 坩堝であるとも言はれてゐる。併し乍ら Dietrich はそうした考へ方を否定した。彼に依れば米國人は混血人種ではなく、一つの人種混合體であり、各人種要素が融合することなしに集積したものである。アメリカナイズされたと云ふことは合衆國の民主主義と國民精神への融合と見るのが正しい。従つて米國では二